

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成24年2月9日 (2012.2.9)

【公表番号】特表2009-509673(P2009-509673A)

【公表日】平成21年3月12日 (2009.3.12)

【年通号数】公開・登録公報2009-010

【出願番号】特願2008-533659(P2008-533659)

【国際特許分類】

A 6 1 J 7/00 (2006.01)

B 2 5 J 5/00 (2006.01)

B 2 5 J 13/00 (2006.01)

A 6 1 G 12/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 J 7/00 Z

B 2 5 J 5/00 A

B 2 5 J 13/00 Z

A 6 1 G 12/00 Z

【誤訳訂正書】

【提出日】平成23年12月15日 (2011.12.15)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 2 2 1

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 2 2 1】

投与計画の遵守支援ルーティンを図 1 6 に示す。ステップ R C - 2 で、ロボットは、延期規則に加えて、居住者への薬物治療の投与計画に対応する薬剤投与量の情報など、個人的な投与計画の遵守情報のデータベース（局所的に、遠隔的に）を確認する。データベースには、一回分の錠剤の数、投薬する時間および方法、食事の前後数分間または 1 時間の遅延が可能であるか否か、投薬がその他との併用が可能か否かなどを含む。本ルーティンは、健康志向の投与計画（運動、治療法、瞑想など）に適用可能であり、矛盾がない場合には、薬剤投与量情報および「投与量」の議論は、どのような種類の投与計画に関連する活動をも含む。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 2 2 2

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 2 2 2】

ロボットは、将来のある時間に居住者の近くにいる必要があることを予想するのに十分な頻度で情報を確認する（例、スケジュールに変更を適応することよりも先に頻繁に確認すること、または事象よりも先に備忘録を設定することにより）。R C - 4 で、事象がもうすぐ生じる（備忘録／リマインダにより、予想される、または知られている）場合、ロボットは、人／居住者を検索し始める。本明細書で論じるような近接のルーティンを維持する場合、居住者がとても近くにいる可能性は有効である。しかしながら、近接のルーティンを維持しない場合でさえ、ロボットは、住居全体を行き来するためにあらかじめ、十分な時間を持って予定を立てることのみ必要であるが、ほとんどの場合、必要ないであろう。既に記載されたように近接事象を使用するよりもむしろ、ロボットは、事象を必要と

するそれぞれの日および時間に、居住者を見つける部屋を記録することによりスケジュールを学習することができ、つまり、命令は、1日の所定時間に、居住者がいる確率が最も高い部屋、2番目に高い部屋などを学習するであろう。ステップRC-8で使用した人探しルーティンは、本明細書で説明されるようなものであり、人の識別性を確認するための検証ステップを含むことができる。